



# 力をつける

今日の言葉

「授業とは  
教えたい内容を、工夫した方法で指導し  
子どもに力を身に付けさせる場である。」  
(佐藤正寿先生)

今年も

平成29年4月17日

## 先生も子どもも “力をつける” 1年に

今年度も研究主任になりました片山です。昨年度に引き続き、細く長く、（昨年度の通信を修正しながら）発行してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

校内研修は誰のためにするのでしょうか？答えはズバリ「教師自身の力をつける」ために行うことだと思えます。力をつけた結果が「教師の先にいる子どもに力を身に付けさせる」ことにつながるものだと考えます。著書も数多くあり、社会科の授業名人 故有田和正先生の愛弟子の岩手県の佐藤正寿先生は「授業とは、教えたい内容を、工夫した方法で指導し、子どもに力を身に付けさせる場である」と言われました。

私は岡山県総合教育センターで7年間、毎日、研修を担当してきました。また、側で数多くの研修を見てきました。いい研修とそうでない研修は、「教師自身や子どもの力が身につくための研修内容だったかどうか」でした。「こうあるべきだ」という話は誰でもできますし、本を読めば書いてあることです。以上のような理由で、研修通信のタイトルは「力をつける」にしました。東小の校内研修も、「こうあるべきだ」「子どもは〇〇だから」という話ではなく、自分自身の、また、子どもたちの「力をつける」場になればと思います。

また、新しい学習指導要領施行も目の前に迫ってまいりました。昨年度、お越しいただいた東北大学大学院教授の堀田先生もおっしゃっていたように「今、できることを、（研究授業だけではなく）日常から、確実にやり続けることが新学習指導要領に基づいた授業づくりへの近道」だということを忘れることなく、ぶれずに、取り組んでいきましょう。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

## “学力の積み上げモデル” をもとに まずは “学習規律の徹底” を！！

今年度も、東小の校内研修は「学力の積み上げモデル」に沿って進めていきたいと考えています。詳しい話は、第1回の校内研修でさせていただきます。

まずは、「学習規律の徹底」をよろしくお願いいたします。「学習規律の徹底が校内研修のテーマになるの？」という疑問があるかと思えます。しかし、学習規律すら指示して徹底できない教室で、全ての子どもに、学習内容を行き届かせることができるでしょうか？

「主体的な子どもを育てる」ことが命題になっていますがまずは、繰り返し指導して、子どもが正しい「型」を身につけ、その「型」を基に主体的に活動できるようになると考えます。ただ手放していても主体性は身に付きませんf(^^)

授業では、子どもたちは「学習内容」と同時に「学習の仕方」を学んでいきます。45分間の間にです。「学習規律の徹底」とは精神的なものではなく、「効率のよい学習の仕方を身につけること」でもあります。

次号では、東小で共通理解している学習規律を掲載しますので、今一度、各学年主任の先生を中心に、ご確認ください。よろしくお願いいたします。  
【文責：片山淳一】

